

# 武藏野市議会議員

# 高野恒一郎

たかの こういちろう

## 市政レポート

平成28年4月 発行

高野恒一郎事務所

武藏野市吉祥寺北町 1-19-6

TEL/FAX 0422-23-0907

MAIL info@genki-musashino.com

**平** 成27年4月に2期目の議席を頂いてから1年になります。各定例会での一般質問及び、平成28年度予算特別委員会において、市長の市政運営・政治姿勢に対し、厳しく質すと共に、様々な提案をして参りました。

現在の武藏野市は、早期に整備された公共施設やインフラの更新を控え、大きな転換期を迎えようとしています。進展する少子高齢化社会をただ迎え入れるだけではなく、元気な武藏野市を築いていく必要があり、活力ある市政への取り組みを進めて参ります。



### —「市長の任期は3期12年まで」— 市長は掲げたスローガンに責任を持つべき

**問 高野** 邑上市長はかつて「市長の任期は3期12年まで」と掲げていたがその認識は今も変わらないか、との質問に「市長に当選したときの公約ではなく、今は掲げていない」と答えていた。これは、政治家としてあまりに無責任な発言だと考えるが見解を伺う。

**答 市長** 市長任期はこれまでの成果を、4年ごとの選挙で有権者にご判断いただくものだと思っている。

本当にそう思っているのであれば、なぜ「市長の任期は3期12年まで」と掲げて選挙に出たのか、このこと自体が無責任な言動であり、市長は掲げたスローガンに責任を持つべきである。

### 大事な事を誰と決めるのか —「市長が真ん中」の市政運営—

**問 高野** 武藏野市公共施設等総合管理計画案において、「ミセン分館の廃止や、外郭団体への公共施設譲渡の検討などが突然示された。しかも公表してからわずか3ヶ月で決定しようとしていることは問題である。

**答 市長** 全体的な方向性を示している物であり決定事項ではない。市議会全員協議会等をお願いして意見を聞き、今後合意形成を図りながら計画を進めたい。

### —平成28年度予算特別委員会 質疑・討論より抜粋—

### 小中一貫校でいじめや不登校が解消されるのか？ 学校施設削減ありきの方針に疑問

**問 高野** 不登校やいじめ、中一ギャップの問題を、制度を変えるための理由にするべきではない。ギャップがあつたら乗り越える力を付けさせる、ギャップに直面して苦しんでいる子供がいたら、手を差し伸べることが大切である。子供たちが抱える心の課題は、制度を変えることで解消できるものではないと考えるが見解を伺う。

**答 教育部答弁** 全国的な傾向で、学年が上がると不登校やいじめの割合が増えている。現行制度では中学校進学時に、学校に不適合を起こす、いわゆる中一ギャップと言われる問題を抱えている子供が増えている。その解消には小中一貫教育が最善と考えている。

現在、武藏野市では施設一体型の小中一貫学校の設置を検討していますが、公共施設削減のための学校統廃合に対する理由付けとしての小中一貫の考えがあるとしか思えず、中一ギャップの存在をそのための理由としていることには賛同できません。これまで武藏野市の教育が培ってきた、小中連携のさらなる充実を目指した議論をするべきです。

### —平成28年第一回定例会 一般質問より抜粋—

### 三鷹駅北口のまちづくり支援体制の構築を

**問 高野** 三鷹駅北口街づくりビジョン（仮称）の策定に関連して、今後、ハード面・ソフト面含めたまちづくり支援体制を構築するべきと考えるが見解を伺う。

**答 市長** 武藏野市開発公社による専門的ななかわりを含め、今後必要な体制を検討したい。

# 吉祥寺南口交通広場の早期完成を

—平成27年第四回定例会 一般質問より抜粋—

議論に繋がっていくと考える。

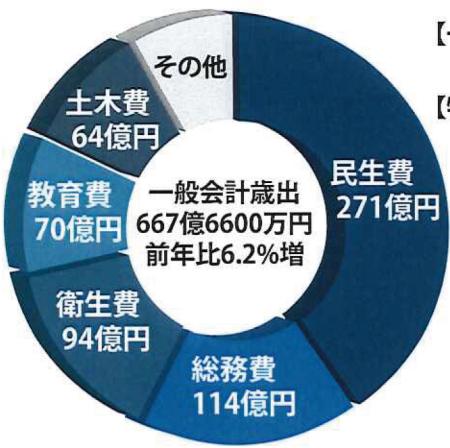
**問 高野** 吉祥寺駅南口の交通問題解消は喫緊の課題であり、南口エリア全体の再開発とは分けて進めるべきであると考えるが、見解を伺う。

**答 市長** 事業認可も視野に入れ、用地買収に向かって折衝等を進めていきたい。

「吉祥寺駅南口の再開発は、地元の方々の悲願であります。が、残念ながら市長からは解決へ向けた情熱を感じられません。また、三鷹駅北口ロータリーに関して、危険性を認識しながら改善へ向かた動きがありません。交通問題の解消は市民の生命・財産を守るためにも重要であり、市長は強い意志を示すべきです。」

今回の一般質問では他に、市立中学校の部活動の外部指導員の人材確保の提案などを行いました。

## 平成28年度武蔵野市予算



平成28年度予算は、予算特別委員会での審査の後、公共施設等総合管理計画及び、学校施設整備基本計画の策定を拙速に進めることのないようとの付帯決議を付けて可決。

## 自校式調理場施設に頼らない食育の推進を

**問 高野**

現在、市立小学校は4校が自校式給食、8校が

**答 市長** 共同調理場方式であり、食育の推進として全小学校に自校式調理場設置の方針を打ち出している。しかし、自校式の給食で育った子供達が共同調理場方式の中学校給食に対し不満を漏らすといった事例を聞いており、調理場方式に頼らない食育の推進を目指すべきであると考えるが見解を伺う。

**答 市長** 子供達の食の環境を優先に小学校に自校式給食の導入をしていきたい。また、中学生になつて給食を残すようであれば、中学校も自校式給食施設にという

## 子供達の体力・運動能力向上へ向けた取り組みの強化を

**問 高野** 児童・生徒の体力や運動能力向上に関する以前提案した小学校における体育専門指導員の配置は評価するが、さらなる環境整備が必要と考えている。今後の取り組みを伺う。

**答 教育長** 体力調査に基づく授業の改善とあわせ、土曜学校スポーツ教室の実施など、運動に親しむ環境を整備し、児童・生徒の運動習慣の定着を図っていく。

## 高齢者・障害者スポーツ振興に向けた連携体制を

**問 高野**

障害者や高齢者のスポーツプログラムの充実に向け、健康福祉部門とスポーツ部門の横断的な連携

を進めるべきと考えるが見解を伺う。



▲第24回むさしの桜まつりにて、現場主義で精力的に活動しています。

共同調理場方式で給食を残すなら自校式給食を与える、という市長の考え方には間違っている、と指摘を致しました。市内に2箇所ある共同調理場給食施設では、日々、調理員の皆さんのが情熱をもって美味しい給食を提供して下さっています。その事に対し感謝の心を育むのが食育の原点だと考えますが、市長のような考え方では武蔵野の食育は進みません。

今回的一般質問では他に「武蔵野市スポーツ振興計画の一部改訂について」等の質問を行いました。